

みらいん

たいはく

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。



◀新しい“愛車”の自転車で飛び回る山崎さん

今月の
ひと

ボランティア活動をコーディネート

仙台市社会福祉協議会の職員

受ける人が本当に必要な支援を

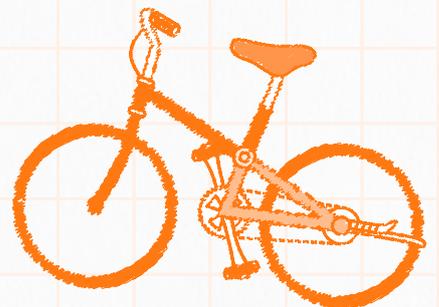
風薫る季節、自転車であると長町仮設住宅へと通っているのは
社会福祉法人・仙台市社会福祉協議会に勤める山崎信理さんです。

今から2年ほど前に太白区事務所に赴任して以来、
地域の福祉活動などに従事してきましたが、東日本大震災後は
復興支援のため仮設住宅内にも頻りに足を運んでいました。

「各ボランティア団体との橋渡しなどを行ってきました。
仮設住宅で支援活動したいという方々の受付窓口になり、
お住まいの皆さんに必要な支援を提供するお手伝いをしてきました」
初めはなかなか思うような支援ができなかったと振り返る山崎さん。

足しげく仮設住宅へ通い続けることで、少しずつ周囲からの信頼を得て
お住まいの方やボランティアと共に充実した活動が行えたそうです。

春の人事異動で仙台市ボランティアセンターへと転任してしまった山崎さんですが、
「これからもボランティア活動を中心に、あすと長町仮設住宅に関わる
皆さんすべてのお役に立ちたい」と、新たな決意を語っていました。



2012

5

第6号

「交流サロン」で楽しくおしゃべり

参加者の感想



同郷の「仲間の輪」が広がります!

「市内浸水地域の方」「親子で避難している方」など近い境遇の方が集まって、一緒にお茶を飲んだりおしゃべりしたりします。このサロンがきっかけでお友達になった方も多数。元々顔なじみだった方が、震災で転居後に再会したという方もいます。時にはお茶飲みに加えて、花の寄せ植えを楽しむサロンなども行っています。



震災の話は、同じ経験をした人じゃないと理解してもらえないことも多いので、同郷の人と話ができて良かったです。サロンがご縁で佐々木さんという友達もできました。今後はお互いの友達を交えて、輪を広げていきたいです。

富澤美佐江さん(写真右)

子ども同士のふれあいを目的に参加しました。子どもだけではなく、ママ友までできたことがうれしかったです。今も富澤さんとは週に1回くらいは会っています。地元の話や、子育ての話もできて、色んな意味で心強いです。

佐々木美智子さん(写真左)



積極的に話しかけられない性格なので不安でしたが、相談員の方が話を聞いてくれて、たくさんの方と話せました。いろいろな考えが聞けて良かったです。このサロンは独りで抱え込んでしまっている人にこそ必要だと思います。

遠藤智恵子さん(写真右)

夫婦で参加しました。予想よりもたくさん人がいて賑やかでしたね。偶然、弟の同級生がいたのには驚きました。男性の参加者が少なかったのですが、居心地が悪いということはなかったです。予定が合えば、次回も参加したいです。

遠藤直幸さん(写真左)

支えあいセンターからのお知らせ

常設の支えあいセンターができました

現在、市民センターなどを巡回して相談に応じていますが、5月から宮城野区、若林区、泉区に常設の支えあいセンターを開設します。皆さんの都合のよい曜日に、ぜひおいでください。

常設支えあいセンター場所:

宮城野区:原町3-5-32 コーポゼン1F

若林区:若林区中央市民センター別棟(保春院前丁3-4)

泉区:泉社会福祉センター内(七北田字道48-12)

開所時間:8:30~17:00/相談受付:9:30~15:00/休:日・月曜日、祝日の翌日、年末年始

支えあいセンターからお知らせが届いていない方へ

借り上げ住宅にお住まいの方を対象に、巡回相談や交流サロンの日程など、支えあいセンターからのお知らせをダイレクトメールでお送りしています。ご希望の方は支えあいセンターまでご連絡ください。

「情報コーナー」は常時設置

気になる情報をどんどん集めよう



市内の市民センターのほとんどにラックを常設し、巡回相談がない日でも、気になる情報が得られるようにしています。「住宅」「仕事」「貸付」「福祉」「生活」など18の区分に分かれた、約50種類の情報が集まっています。「こんな情報がほしい」などの要望にも応じています。

太白区内

巡回相談スケジュール

相談受付時間:9:30~15:00 相談無料

センター名	曜日	日程
太白区中央市民センター Tel.022-304-2211	毎週土曜日	5月12・19・26日 6月2・9・16・23・30日
富沢市民センター Tel.022-244-3977	毎週木曜日	5月10・17・24・31日 6月7・14・21・28日

皆さんの悩みや相談事など、何でも遠慮なくお話しください。また、借り上げ住宅にお住まいの方を支援したいとお考えの地域の方々に対しても私たちは手助けをしています。

庄子健一所長



借り上げ民間賃貸住宅に お住まいの皆さん!

支えあいセンターとは?

支援の手が届きにくいと言われる、借り上げ民間賃貸住宅(以下、借り上げ住宅)にお住まいの方々のための支援事業です。次の3つの柱で、借り上げ住宅の皆さんを支えています。

社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会の

「地域支えあいセンター」を活用しましょう。

①巡回相談

借り上げ住宅での暮らしの中で起こる悩みや困りごとを相談員が聞いて、一緒に解決の道を探ります。

②交流サロン

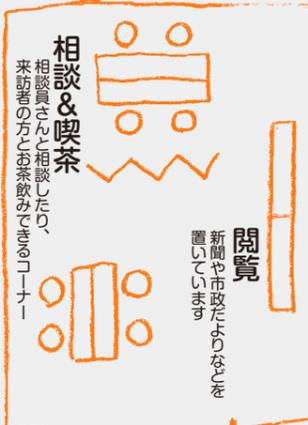
同じ地域から避難している方や慣れない土地で困っている方などが集まって開催する交流サロンです。お茶を飲みながら、参加者同士で同郷の話をしたり今の悩みを共有したりできる時間です。

③情報コーナー

巡回相談で使用している市民センターを含む市内59カ所にラックを設置し、支援制度情報や地域情報などを閲覧、配布できるようにしています。

中核支えあいセンター:仙台市青葉区五橋2-12-2 仙台市福祉プラザ4階 TEL. 022-217-7234

2 相談コーナー



※相談会場は、あらかじめ受付が異なります。



酒井さんを担当した相談員の西山敦子さん(写真左)、田名部郁子さん

相談ブースはパーティションで区切られており、周りを気にせず相談できます。明るい相談員の方々が、笑顔で迎えてくれました。

1 出発



太白区で2カ所ある巡回相談のうち、今日は富沢市民センターへ。みやぎ生協富沢店のすぐそばです。

酒井一弘さん・博美さん夫妻

富沢在住。一弘さんは飲食店勤務。博美さんは、時々仮設住宅でボランティアをしています。



3 お茶っこ飲み・新聞読み



相談が終わったら、お茶をいただきながら、相談員の方々と楽しくおしゃべり。リラックスして話も弾みます。相談がなくても、お茶飲み・新聞読みに来る方も多いのだそうです。



新聞も読めます

1週間分の河北新報、福島民報、福島民友などを見ることができます

体験してみてもいいよ

“巡回相談”という名前に緊張していたけど、くだけてくると楽しく話せたよ(一弘さん)。

話すだけでだいぶ楽になった。周りの人にも教えてあげたいわ(博美さん)。

これまでの相談例 このように対応しました。

Aさん(80代・女性)

入居先の新聞の回収日、出し方が分からないと相談がありました。お話を聞いていくと、震災前は民生委員の訪問を受け地元のサロンにも参加していたので、現在住んでいる地域の民生委員につないでほしい、という希望があることが分かりました。そこで区の社会福祉協議会を通して担当する民生委員に連絡を取り、訪問を行っていただきました。

Bさん(70代・女性)

移り住んだ地域に知り合いがなく、支援の情報を求めて相談に見えられました。地域のサロン(健康教室)の案内を渡しお誘いしたところ、参加希望があり、サロンに参加することになりました。

Cさん(60代・女性)

足が悪いため借り上げ住宅のお風呂が使いづらいと相談。相談員が近くの入浴施設9カ所を載せた手作り地図をお渡ししたところたいへん喜ばれ、その後は入浴施設を利用しているという報告がありました。

「巡回相談」を体験してみました

巡回相談ってどんな感じ? 現在太白区の借り上げ住宅にお住まいの方が、区内の市民センターで開催する巡回相談を体験取材しました。

※区内の他の巡回相談や交流サロンのスケジュールは、支えあいセンターから送るダイレクトメールでご確認ください。他区の開催日については、中核支えあいセンターにお問い合わせください

みらい編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

6日(火) 3Dペット写真引き渡し会



ペットの写真を3Dにするサービスの譲渡が、あすと長町仮設住宅の集会所で開かれました。ペットを亡くした方が対象で、作品を受け取った人たちは思わぬ再会を喜んでいました。企画したクローンファクトリーでは「少しでも元気になってくれれば」と話していました。

18日(日) マザーアースコンサート

東日本大震災における支援活動の一環として行われている「マザーアースコンサート」が、仮設住宅内の集会所で開催されました。当日は歌手の比嘉ひろ音さんが、童謡や歌謡曲など全11曲を熱唱。訪れた人たちは歌声に聞き入っていました。

22日(木) 赤倉温泉ツアー

あすと長町仮設住宅自治会主催、長町まざらいい共催のコミュニティづくり研修会「赤倉温泉バス旅行」が行われました。イベントは今回で2回目。当日は仮設住宅にお住まいの約20名が参加し、山形県最上町の郷土食と温泉を心から楽しんでいました。

25日(日) 縁日・屋台村



民医連ジャンボリーが主催する「縁日・屋台村」が、仮設住宅の中央広場で開催されました。定番の焼きそばや豚汁、お汁粉などの屋台ブースのほか、住人参加によるフラダンスなどのステージイベントも実施。多くの人が春の宴を満喫していました。

28日(水) 九州交響楽団コンサート

九州交響楽団の有志5人による演奏会「九州交響楽団メンバーによる木管五重奏～おしゃべりな管楽器たち～」が、あすと長町仮設住宅の集会所で行われました。「魔笛」や「トルコ行進曲」など馴染みの曲に、訪れた人たちは聞き入っていました。

11日(日) あすと長町仮設住宅自治会



震災から1年を迎えたこの日、かねてから仮設住宅での自治会承認を目指していた「あすと長町仮設住宅運営委員会」の会合が開かれ、「あすと長町仮設住宅自治会」が発足しました。会合では新組織に関する条項や会計報告などが行われた後、運営委員会の鈴木会長が退任を発表。続く挨拶で「これからも私たちの“自立住宅”で力を合わせてがんばりましょう」とエールを送っていました。震災が発生した2時46分には、自治会の新会長となった飯塚さんの合図で1分間の黙とうが捧げられ、出席者らは決意を新たにしていました。

27日(火) 遊びリテーション



太白区レクリエーション協会が主催する参加型イベント「遊びリテーション」が、仮設住宅内の集会所で行われました。当日は、絵札や遊び道具などを使ったプログラムを多数用意。参加者らはみな楽しそうに、頭と体をリフレッシュしていました。

次回のお知らせ

日時/5月15日(火) 13:30~15:30
会場/あすと長町仮設住宅集会所 問/太白区レクリエーション協会(中島)/090-5594-5008

29日(木) 桜の木を植樹



仮設住宅内に桜の木を植樹するプロジェクトが行われ、3mほどの桜の木3本が植えられました。企画したのは、同所でボランティア活動が続ける「ソーケングループ」ほか。代表の有吉徳洋さんは「今後もさまざまな形で支援を続けていきたい」と話していました。

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいの方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体の話し合われている内容についてお知らせします。

明日の三本塚を考える会

東六郷地区における農地と宅地の一体的な整備や住民主体のまちづくりを目指しています。



▲まちづくりのワークショップでは、皆さん活発な意見を交わしていました

▼会の終わりにはワークショップの成果を報告しました

3月18日(日) 六郷東部地区住まい・街づくり学習会

藤塚や荒浜からも約50名参加

- 内容
- 住民への聞き取り調査の中間報告
 - 東六郷地区の地域性についての講話
 - 自宅の再建やまちづくりについて話し合い

当日の様子
さまざまな境遇の方々が、希望や夢を語り合うことで、地域の将来像が浮かび上がりました。住居と農業のあり方について、参加者が積極的な意見交換を行う場として学習会を活用し、東六郷地区の再生と活性化を話し合いました。

問い合わせ先: 代表 小野吉信 090-3122-4843
会議、学習会は自由参加、随時開催

南蒲生復興部



南蒲生町内会の復興部は、個々の生活再建とふるさと南蒲生の復興を迅速に進めるために、町内会から権限の委譲を受けて、独自の復興まちづくり計画を策定し、市への提案を行っています。

◀岡田西町公園仮設住宅の集会所で、身を乗り出して地図を覗き込む復興部の皆さん

4月11日(水) 第9回事務局会議

- 内容
- 市へ提出した南蒲生復興計画(基本構想)について
 - 一体的まちづくりについての協議
 - 移転候補「試案」の各土地の特徴を話し合う
 - 住民意向アンケート原案をどのように作るか

当日の様子
災害危険区域内で移転を余儀なくされている方、区域外で現地再建を希望する方、移転再建を希望する方では、置かれた状況も考え方も三者三様ではあるが、互いに協力し合い、県道沿いの塩センター付近を中心とした一体的なまちづくりを進めよう、との声があがっていました。

問い合わせ先: 代表 芳賀正 090-4042-9464
事務局会議: 毎週水曜日 18:30~ 岡田西町公園仮設住宅集会所
住民説明報告会: 毎月最終日曜日 岡田会館

中野小学校区復興対策委員会

中野地区4町内会(港・蒲生・西原・和田)が一丸となり、復興に向けた活動を行っています。

4月1日(日) 第18回中野小学校区復興対策委員会

- 内容
- 「新地元年」、復旧・復興に向けた取り組み(高橋実委員長の挨拶)
 - 3月18日に同委員会主催で執り行われた合同慰霊祭の報告
 - 慰霊塔清掃を4町内会で月交替で担当することの確認
 - 集団移転先に関する住民の意向収集について徹底することを確認

当日の様子
協議の中で、集団移転先について委員会として方向性を示してほしいとの意見も出ましたが、住民アンケートの結果をもとに既に移転候補地を住民に示している町内会もあるので、防災集団移転事業の申出書提出前に各町内会で個々に対応することとなりました。

問い合わせ先: 委員長 高橋実 022-258-3068
定例会議: 毎月第1、第3日曜日 16:00~
鶴巻1丁目東公園仮設住宅集会所

※記載している内容は、各開催日現在での情報です。最新の情報については各団体へお問い合わせください

読者から
ひとこと

● 息子が鍋沼に立派な家を建て直してくれる。それまでは死んでなるものか! 今は死ぬの忘れちゃったよ。居久根とぎれいな庭があつたんだ。亡くなったコレ(親指)を立てる(仕事)に復興を土産に持つていくの。
宮城野区/松岡みいこさん

● 集会所の横にあった自動販売機が、契約終了で撤去されてしまいました。ワンコインで利用できる人気者だっただけに残念。撤去作業中、思わず業者さんに「今までありがとうございました」と挨拶しちゃいました。
太白区/遠藤さん

● 工場と家が流されてしまいました。金銭面から工業団地移転は現実的ではないです。仕事を続けるためにも、一番の理想は深沼の工場を再建して、その横にわしと犬が生活できる小屋を建てることです。
若林区/山本靖一さん

レポート・近所ぶらり

取材したのは：
あすと長町
整備事務所

仙台的未来を担う あすと長町の今後

仙台的の拠点地区である長町。JR線西側は昔ながらの街並み。一方、東側の八十二号線の広大なエリアでは、新しいまちづくりのつち音が響いています。「あすと長町」のこれまでとこれからを、市の担当部署「あすと長町整備事務所」の所長小高睦さん（現・交通政策課長）に聞きました。

かつてこの場所には、国鉄の貨物ヤードや工場、民家などがありました。その一帯を土地区画整理事業の手法で整備。平成二十四年の基盤整



あすと長町の概要を、小高さんに教えてもらいました

備の完了に向け、いままも工事が進んでいます。名前は「明日都」と、英語の「US（私たち）」が由来です。事業着手前の面影は、いまはほとんどありません。南北に走る「あすと長町大通り」は幅員五十メートル。JR長町駅も広域拠点の玄関口にふさわしく、美しく整備し直されました。今後は大型スポーツ用品店のオープンや、二十六年年度完成を目指す新市立病院の建設などが続きます。

震災直後に仮設住宅建設 事務所職員も支援に奔走

そんな街の大きな変化の中で起きた大震災。応急仮設住宅の整備がいち早く求められた翌十二日、市役所内で候補地として真っ先に挙がったのはあすと長町だったそうです。小高さんは「土地が広くてライフラインが整備されていて、交通の便もいい場所と言ったら、皆『あすとしか』と声を揃えたんです」。しかし、そうしてできた二百三十三戸。しかし最初の入居は二十五世帯にとど



平成10年、土地区画整理事業が本格化する直前のあすと長町付近

まりました。「津波被災エリアに住んでいた方々にとって、あすと長町は『見知らぬ土地』。不安が大きかったのでしょう」。小高さんは被災した方の当時の心中を、そう察します。しかし、その後の募集では応募者が倍増。昨秋には全戸が埋まりました。

見知らぬ土地での暮らしを少しでも支えようと、小高さんらあすと長町整備事務所の面々はその後、職域を超えてお住まいの方の支援に汗しました。仮設住宅の集会所に椅子や机を自ら調達して運び入れたり、建設業者に協力を呼び掛けて掲示板を立ててもらったり。小高さんは「何とかしたいの一心でした」と思い起



現在も開発が進むあすと長町。手前が仮設住宅です

こします。そんな小高さんも今春、人事異動で二年を過ごした長町を離れました。「人情味豊かな長町が大好き。親しくなった仮設住宅にお住まいの皆さんとは今後も連絡を取り合い、できる限りのフォローは続けたい」と話します。

街並みは大きく変わっても、人々との交わりは昔かたぎ。仮設住宅にお住まいの方にも、小高さんのような長町への愛着が、じんわりと広がってほしいと思いました。

【仙台市都市整備局計画部
あすと長町整備事務所】
住 所：太白区長町 3-3-9
39ビル3階
電 話：022-249-8301
アクセス：地下鉄長町駅徒歩4分
JR長町駅徒歩5分

情報掲示板

仮設住宅や近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

支援情報提供サービス

被災した方向けのイベントや支援物品提供などボランティアセンターに届いた支援情報を、パソコンや携帯電話にメール配信しています。

対象 借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方

申込方法 2月の復興定期便に封入した申込用紙に必要事項を明記しFAX、郵送、持参。またはパソコン、携帯電話からのメールで①～③を明記して送信。①氏名、性別、生年月日、年齢、住所、世帯人員、連絡先電話番号 ②情報提供するパソコンか携帯電話のメールアドレス（申込者本人以外でも可、その場合申込者との続柄と連絡先電話番号を明記） ③緊急連絡先の希望（申込者本人、もしくはメールアドレス登録者、その他のいずれか）。

問 仙台市青葉区五橋2-12-2仙台市福祉プラザ4階
仙台市ボランティアセンター・復興支援「EGAO（笑顔）せんだい」サポートステーション
TEL022-266-6805 FAX022-216-0140
Eメール：sendai-vc@poppy.ocn.ne.jp
http://www.ssvc.ne.jp

出前講座を開催します

東北財務局では、振り込み詐欺などの金融犯罪被害に巻き込まれない日頃の心がけを説明する出前講座を行っています。仮設住宅集会所や市民センターなどにお出かけいただけますので、ご希望の方はお問い合わせください。

対象 どなたでもご利用できます

問 東北財務局 金融監督第三課
仙台市青葉区本町3-3-1 仙台合同庁舎4階
022-266-5703（直通）、022-263-1111（内線3080）

被災者のコミュニティ支援の助成制度を創設

仙台市は、東日本大震災の被災者のコミュニティ形成に向けた事業に対して助成を行います。

対象となる事業

- ・コミュニティ形成・活性化に資するまつりやイベント
 - ・自主的な勉強会、講演会・生きがいつくり支援 など
- 対象団体 応急仮設住宅などにお住まいの方が属している町内会や東日本大震災の被災者が中心となって構成された団体など

助成金額 1事業あたり10万円限度※一部助成対象外経費あり

助成期間 平成24年4月～平成25年3月

応募窓口 各区まちづくり推進課

問 022-247-1111（内線6138）太白区まちづくり推進課
022-291-2111（内線6137）宮城野区まちづくり推進課
022-282-1111（内線6137）若林区まちづくり推進課

大震災後の心のケア

体験を語り、また聴くことを通して心の回復を目指す自助グループの集いです。今回の震災で心がいたみ悩んでいる方や家族の方など、ぜひお申し込みください。

対象 今回の震災で心が痛み悩んでいる方とその家族、
定員20名 予約制
時 5月13日（日）14:00～16:00、
6月10日（日）14:00～16:00
所 仙台市福祉プラザ10階 第4研修室
申込・問 080-3328-7186

仙台心のケア研究会（吉村）
Eメール：qqw59pc9k@star.ocn.ne.jp
電話相談も行っています
022-308-6067
（月～土曜10:00～16:00）

東部地域における住宅宅地再建のための支援方策

仙台市では津波により被災した東部地域において、①移転対象地区（災害危険区域）から安全な地域への移転、②防災施設整備後も浸水被害が予測される地域の宅地防災対策等を促進するための支援制度を整備しました。

対 象	①災害危険区域		②浸水が予測される地域	
	防災集団移転	市街化区域に単独移転／農業・漁業従事者の市街化調整区域移転	現地再建	市街化区域に移転／農業・漁業従事者または5戸以上による市街化調整区域移転
被災宅地の買取	●	●	×	×
住居移転に伴う費用（引越し費用及び従前建物取り壊し費用）	●	●	×	○※
移転再建資金借入利子相当額助成	●	●	×	○※
移転先土地借地料の長期間免除	●	×	×	×
盛土・嵩上げ等宅地防災工事費用一部助成	×	×	○※	×

以上は制度創設前に住宅・宅地を移転・再建した場合についてもさかのぼって適用します
※＝10年間の時限措置

申請方法 対象の方に別途郵送でお知らせします

問 ●印に関して／022-214-8805 仙台市復興事業局 復興まちづくり部 移転推進課
○印に関して／022-214-8032 仙台市復興事業局 復興まちづくり部 事業調整課

あすと長町仮設住宅イベント（会場はすべて仮設住宅集会所）

※下記以外にもさまざまな催しがあります

日 時	イ ベ ント	対 象	問 い 合 せ
5月15日（火） 13:30～15:30	遊びリレーション みんなで生き生きレクリエーション	仮設住宅入居者	太白区レクリエーション協会 090-5594-5008（中島）
5月19日（土） 15:00～17:00	復興支援コンサート	仮設住宅入居者	アートインクルージョン実行委員会 090-3123-6363（白木）
5月22日（火） 13:30～15:00	心の悩みを聴く おしゃべりとお茶の時間	仮設住宅入居者	仙台傾聴の会 080-3199-4481 （森山／火・木・土曜日 9:00～17:00）
5月23日（水） 10:30～11:30	ヨガ	仮設住宅入居者	アテンボヨガクラブ 080-4084-2369（鈴木／18:30～）

けんいっくコラム

からだ編

「福」とは五感を感じて

美味しく食べることに

お口で食べ物を食べるとその栄養は満腹感につながり、美味しいと感じることは満足感となります。私は歯科医でお口の健康を回復することを仕事としていますが、お口は幸福を感じる入り口だと考えています。このとき、より多く幸福を感じるには五感を上手に使うことがカギとなります。美味しく新鮮そうな真っ赤なリンゴ！まずは目でみます。「視覚」です。リンゴのいいにおいだ、これは「嗅覚」。次は「触覚」ですがこれは皮膚の感覚とお口の中の歯で感じる食感の2種類に分けられます。そして甘くてちょっと酸っぱいな、これは「味覚」ですね。シャキッとリンゴをかじり、お口の中ではシャリ、シャリと咀嚼します。ここで感じるのが「聴覚」です。これらの刺激が神経を通して脳に届き「美味しい」と感じます。五感を上手に使うことは脳をたくさん刺激することにつながり、体に入った栄養は心も体も健康にし、そして美味しいと感じたことが「福」となります。ぜひ食事はゆっくり落ちついて、良く噛んで楽しい時間にして頂けるといいと思います。お口と歯から始まる健康生活はじめてみませんか。

旭ヶ丘ジュン歯科 歯学博士 柏崎 潤

柏崎 潤 (かしわざき じゅん)

日本睡眠学会認定歯科医、クリニック内で『ジュン先生の歯学教室』を開催するなど、歯と健康に関するトータルアドバイザーでもある。ホームページ <http://www.junshika.jp/>

クロスワードパズル

出題 石田竹久

こたえ

A	B	C	D	E	F
---	---	---	---	---	---

1	2	3	4		
5	D	6			
			7	B	8
	9	10			
11	C			12	F
		13			
14		E		15	A

タテのカギ

- ① 盛大なパレードなどで初夏の仙台市を熱気に包み込む、〇〇〇まつり
- ② 上杉謙信の故事による言葉、敵に〇〇を送る
- ③ タカ派に相対する、〇〇派
- ④ やたらと浪費する意味なのは、〇〇〇〇のように使う
- ⑤ 『OH! バンデス』の司会の宗さんといえば、〇〇〇宗幸
- ⑥ ゴルフの前半9ホールはアウト、では、後半9ホールは?
- ⑦ 仙台から鳴子温泉などへと向かう、奥の細道湯けむりライン。ここを6月まで走るイベント列車が、リゾート〇〇〇
- ⑧ ササニシキやひとめぼれなど、宮城県を代表する農産物
- ⑨ 伊達政宗公の孫にあたる光宗公の菩提寺で、「バラ寺」とも呼ばれる、〇〇〇〇院
- ⑩ ひとつの事に熱中し、心を奪われてしまう状態
- ⑪ 実物大のロケット模型が壮観。角田市にあるスペースタワー・コスモ〇〇〇
- ⑫ 笑う〇〇には福来たる

ヨコのカギ

- ① 目的地に着いてからさらに遠くへと向かうのは、〇〇を伸ばす
- ② 3月のフィギュアスケート世界選手権で3位で表彰台に。仙台の新たな星、〇〇〇〇結弦
- ③ モロヘイヤによる町おこしで知られ、支倉常長メモリアルパークがある、黒川郡〇〇〇〇町
- ④ 賀茂神社、ユアテックスタジアム仙台などがあるのは〇〇〇〇区
- ⑤ 県庁や定禅寺通りにほど近く、市民の憩いの場となっている、勾当台〇〇〇〇
- ⑥ みやぎの明治村や油麩井が有名な〇〇市
- ⑦ 裁縫にも注射にも欠かせない物
- ⑧ 映画のことを、かつては〇〇〇〇写真と呼びました
- ⑨ 東京都から仙台市を通って青森県まで。日本最長の〇〇〇〇は4号線
- ⑩ 気仙沼市の十八鳴浜といえば、鳴き〇〇で有名

前回のこたえ

A サ B ク C ラ D サ E ク

でした。

1	シ		2	サ	ヌ	3	マ		4	エ
5	ヨ	ア	ケ		7	ク	8	テ	ン	
9	ウ	ン	メ	10	イ	11	イ	ド		
12	ジ			13	マ	14	フ	15	ラ	ー
	16	ユ	17	カ	18	ジ	ク			
19	ト		イ	ク	20	サ	モ			
21	ホ		ク	ト	22	ワ	タ	リ		

編集後記

あすと長町仮設住宅の敷地内に、かわいい桜の木が3本ほど植えられました。今年は開花が遅れているので、まだまだつぼみの状態ですが、花が咲くのが待ち遠しい今日この頃です。(さいとう)

冬の間にため込んだ脂肪を落とそうと、太白区担当2人はダイエットを開始。1人はきちんとカロリーを管理し、1人はから揚げをむさぼり食べる。結末はいかに。乞うご期待! (あつみ)

情報提供のお願い

「みらいん」は、皆さんと一緒に作り、歩む情報紙です。紙面に対するご感想や、紹介したい人や場所、今抱えている思いなどのコメントをハガキ、FAX、メールでお寄せください。読者の皆さんの思いを、紙面に反映していきます。

送付先: 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12

「みらいん」編集部

F A X : 022-390-5756 e-mail : kawara@mmmm.or.jp